

No. 1344

# 世界の妙技

## —日米親善サッカー—

日米親善サッカー、ニューヨーク・コスモス対日本代表との試合が10月14日、東京国立競技場に約5万人の観衆を集めて行われた。コスモスは世界の有名選手を集めたスター集団。サッカーの“皇帝”といわれるベッケンバウアー、得点王のキナーリアなど、11人の選手が随所で世界の技を披露。サッカー選手として獲得できるすべての栄誉を手中にしたベッケンバウアー、ヒザの手術を受けたとは言え、彼の正確で芸術的なプレーは今も生きていた。イタリアにあってヨーロッパにその破壊力をとどろかせたジョルジオ・キナーリア、彼の俊敏な動きと豪快なシュートは衰えを見せていない。力と技が次々に日本ゴールを攻めるが日本代表は必死にディフェンス。。試合は2対2の引き分けだったがスタンドをうめた観衆は世界の妙技に魅了された。

# 教養と文化のひろば

## —東京文化センター—

いまや、東京一の新名所となったサンシャイン60。オープンして早くも一周年、東京文化センターでは将棋や囲碁、伝統的な茶道、流行のヨガなど大人も子供も楽しく学べる講座が開かれています。昼間は主婦層に、夜間はOLや会社員の人気を集めているこの文化センターの役割はますます大きくなっています。

# 劇画「ヌマさん物語」

劇画作家、森哲朗さん51才。忙しい創作活動のあい間をぬって、社会党本部へ足を運ぶ。劇画「ヌマさん物語」を書くためだ党の人々から浅沼さんの歩んできた政治活動や人柄をきき出す。イメージ造りに大切な仕事だ。ヌマさんこと浅沼稲次郎元委員長。劇画「ヌマさん物語」は浅沼さんが20回目の命日を迎える直前完成した。劇画は日比谷公会堂の立会演説会より始まる激しいヤジの中ヌマさんは訴える。その時一人の少年が浅沼さんをめがけて突進した。……。劇画の作者、森さんは、『低迷を続ける革新陣営にも、かってはこんな魅力のある政治家がいたことを訴えたかった』と語る。あれから20年たった昭和54年10月12日、浅沼さんの眠る多摩墓地で墓前祭がひらかれた。

『沼さんは倒れた。ではない。倒された。一本の刃で突如。そして何百何千もの凶器が息をひそめて、何かを待ちかまえてい るような不安と恐怖のいまは時代だ。（浅沼委員長の死を悼む 草野心平）